

第一回『能登半島地震および奥能登豪雨からの「復興の実感」に関する定点アンケート』

一般社団法人 能登乃國百年之計

2025年1月29日

目次

1	本アンケートについて	P2
2	あなた自身の暮らしは（能登は）復興に向かっていると感じていますか？	P3
3	復興していると感じる理由	P5
4	復興していないと感じる理由	P7
5	回答詳細	P9

1. 本アンケートについて

一般社団法人能登乃國百年之計では、『能登半島地震および奥能登豪雨からの「復興の実感」に関する定点アンケート』を実施。アンケートの結果は当社団で定期的に集計し、ウェブサイトでの公開を予定している。

アンケート名

『能登半島地震および奥能登豪雨からの「復興の実感」に関する定点アンケート』

第1回 実施期間

2024/12/23 - 2015/1/13

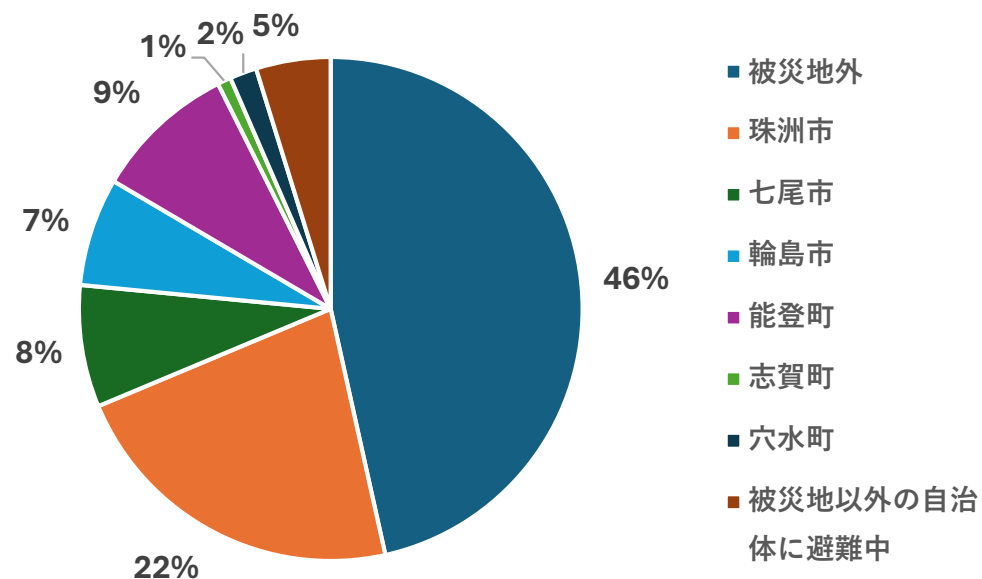
第1回 回答者数

230人

次回調査実施予定

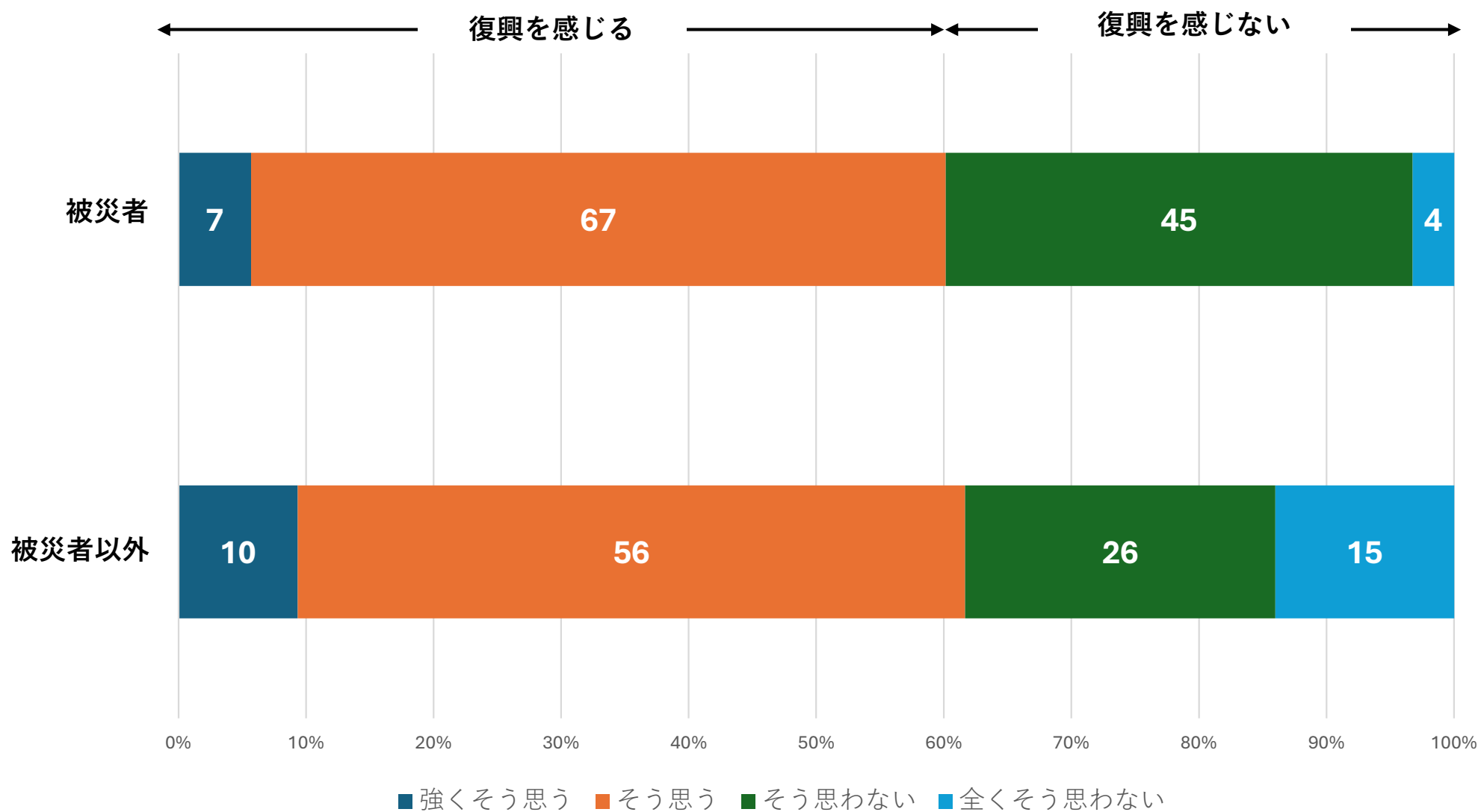
3か月後の2025年3月頃を予定

回答者所在地

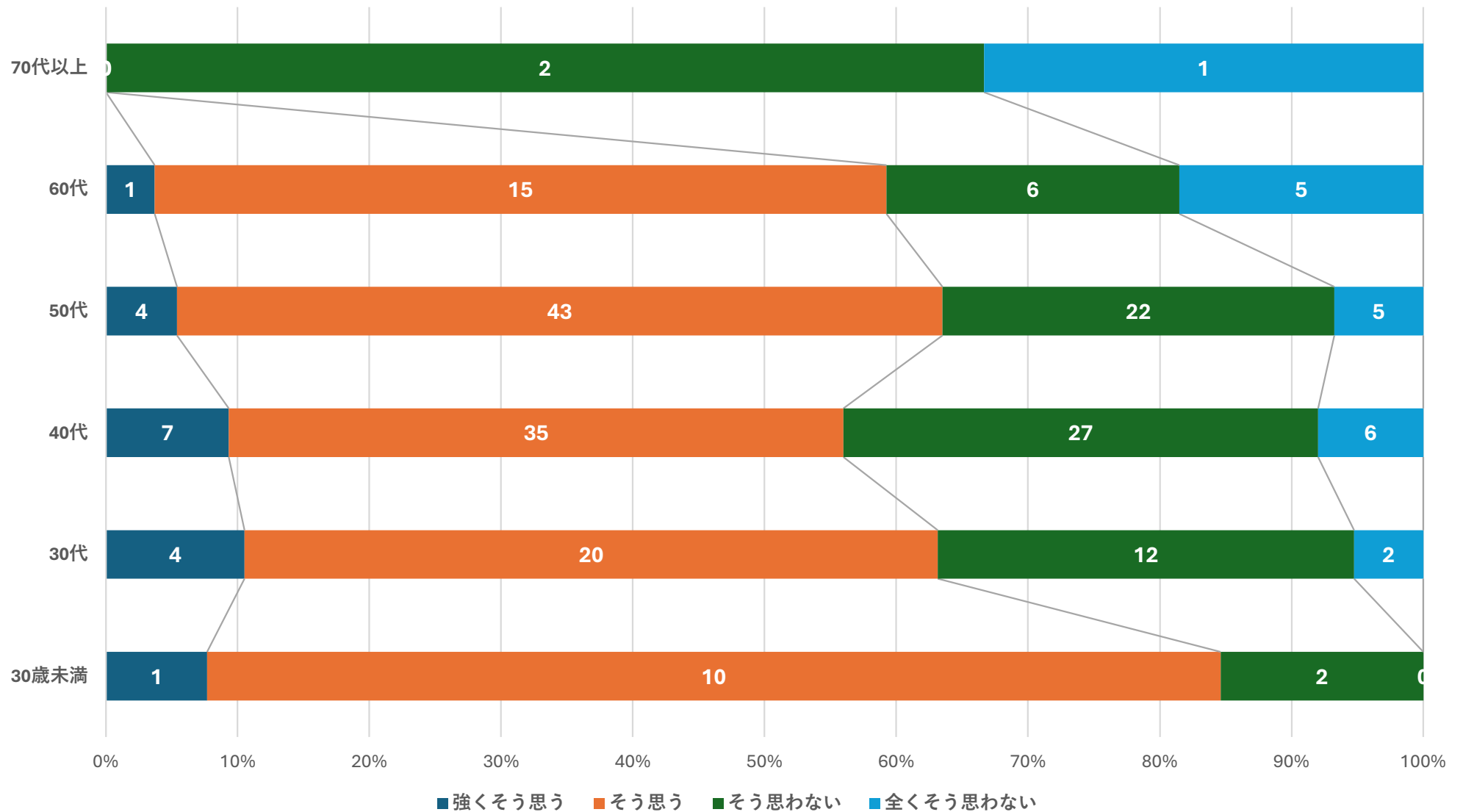


2. あなた自身の暮らしは（能登は）復興に向かっていて感じていますか？

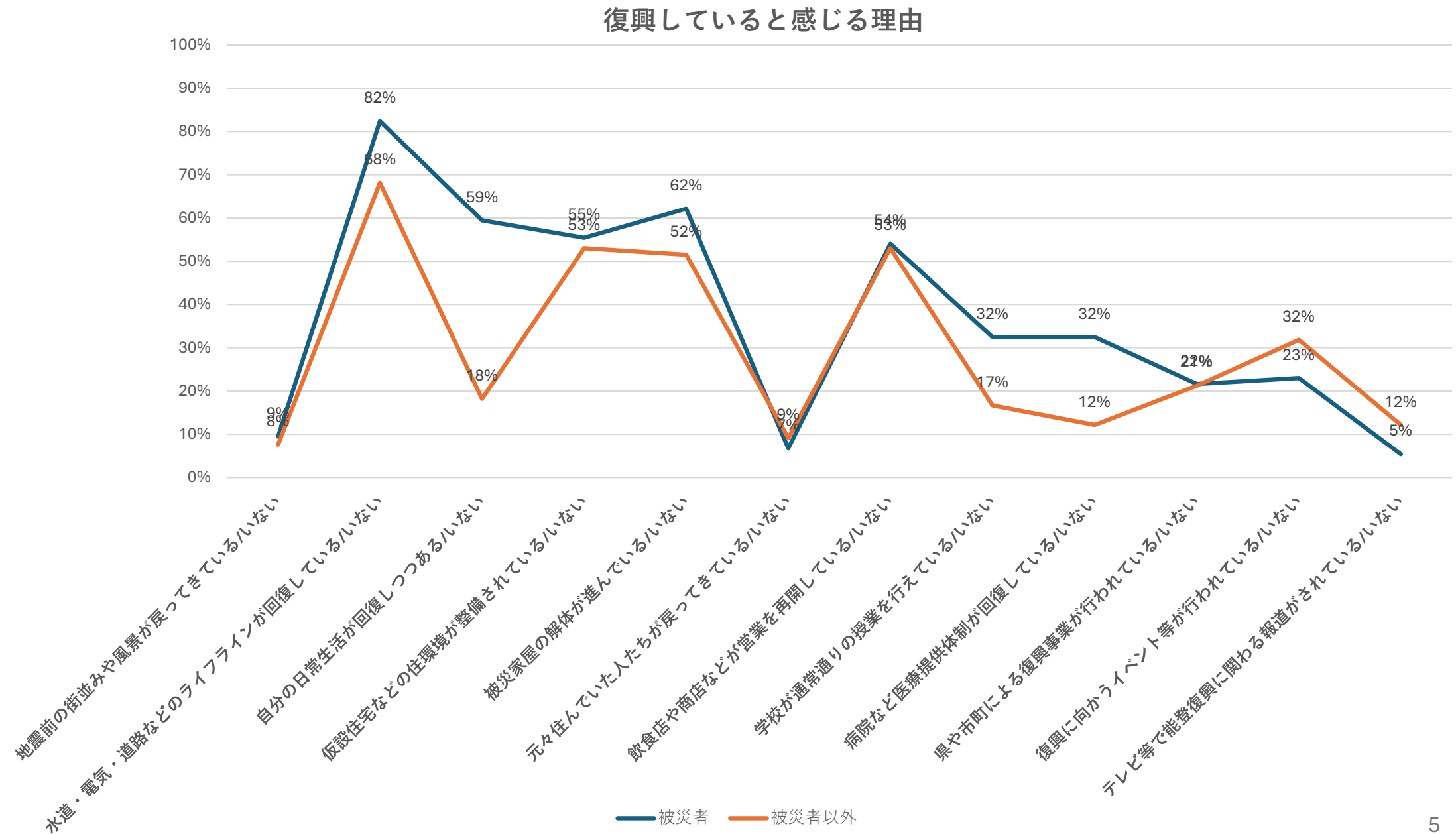
2 - 1. 被災者/被災者以外



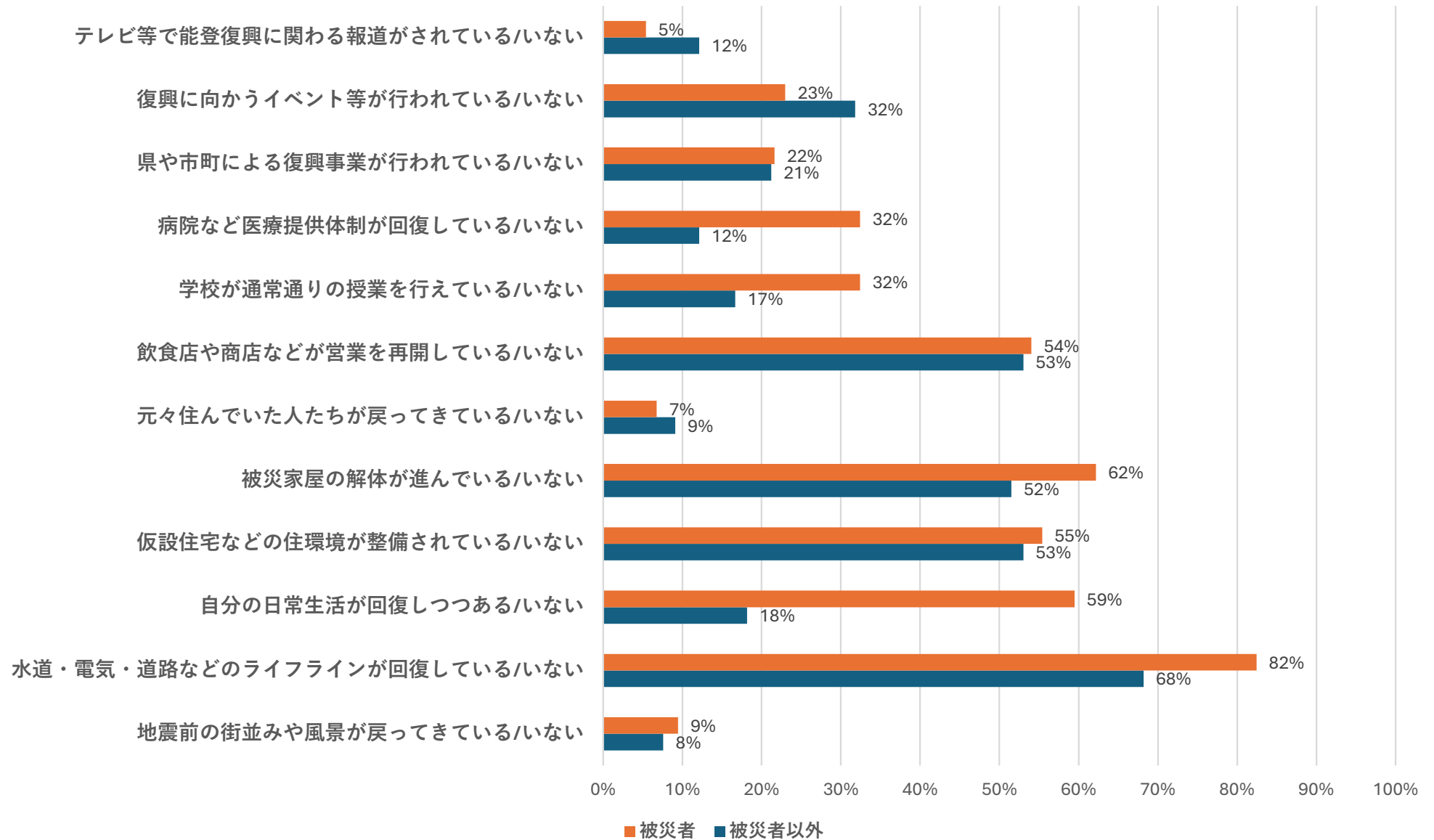
2. あなた自身の暮らしは（能登は）復興に向かっていていると感じていますか？ 2 - 2. 年代別



3 - 1. 復興していると感じる理由 - 折れ線グラフver -

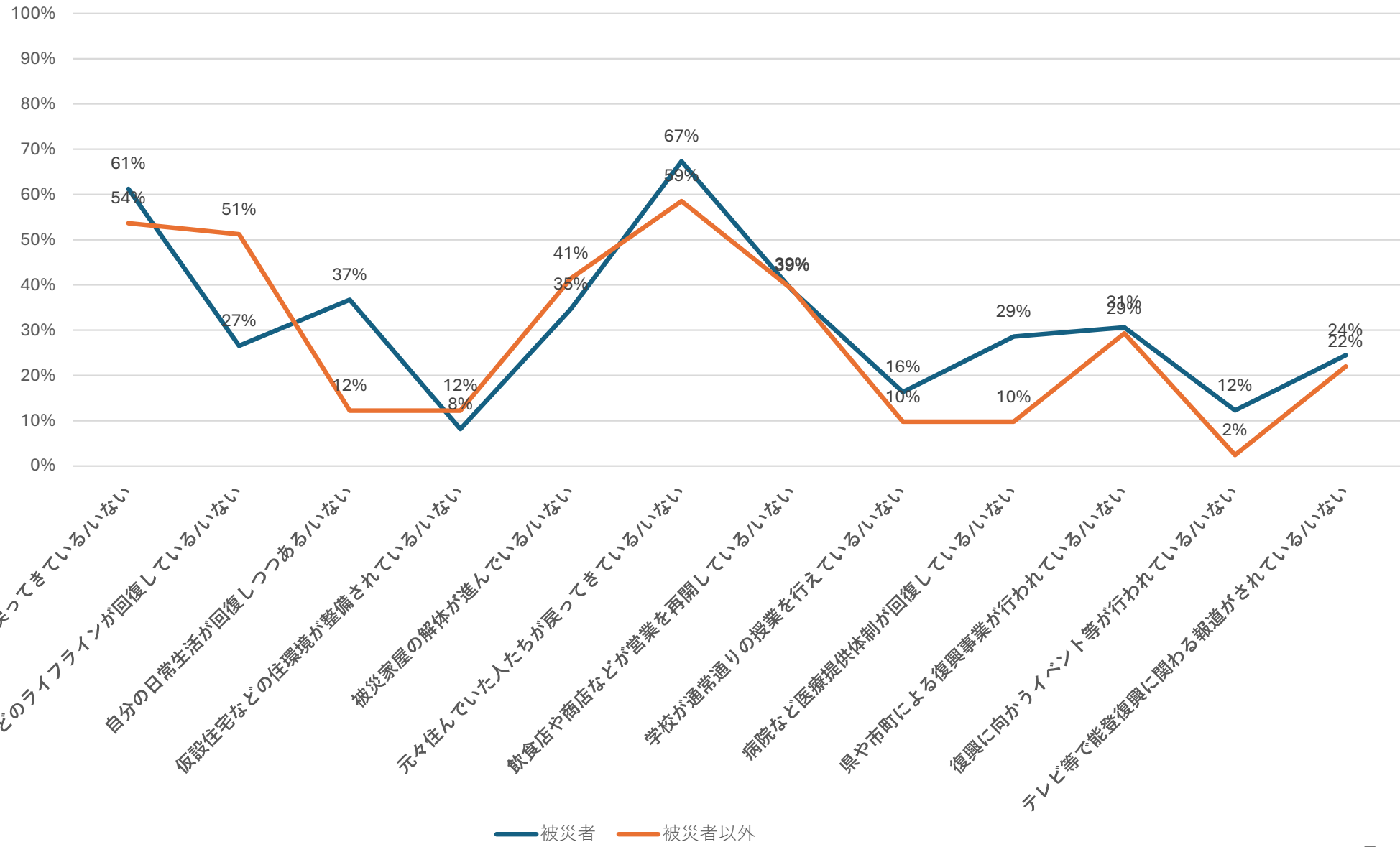


3 - 2. 復興していると感じる理由 - 棒グラフver -

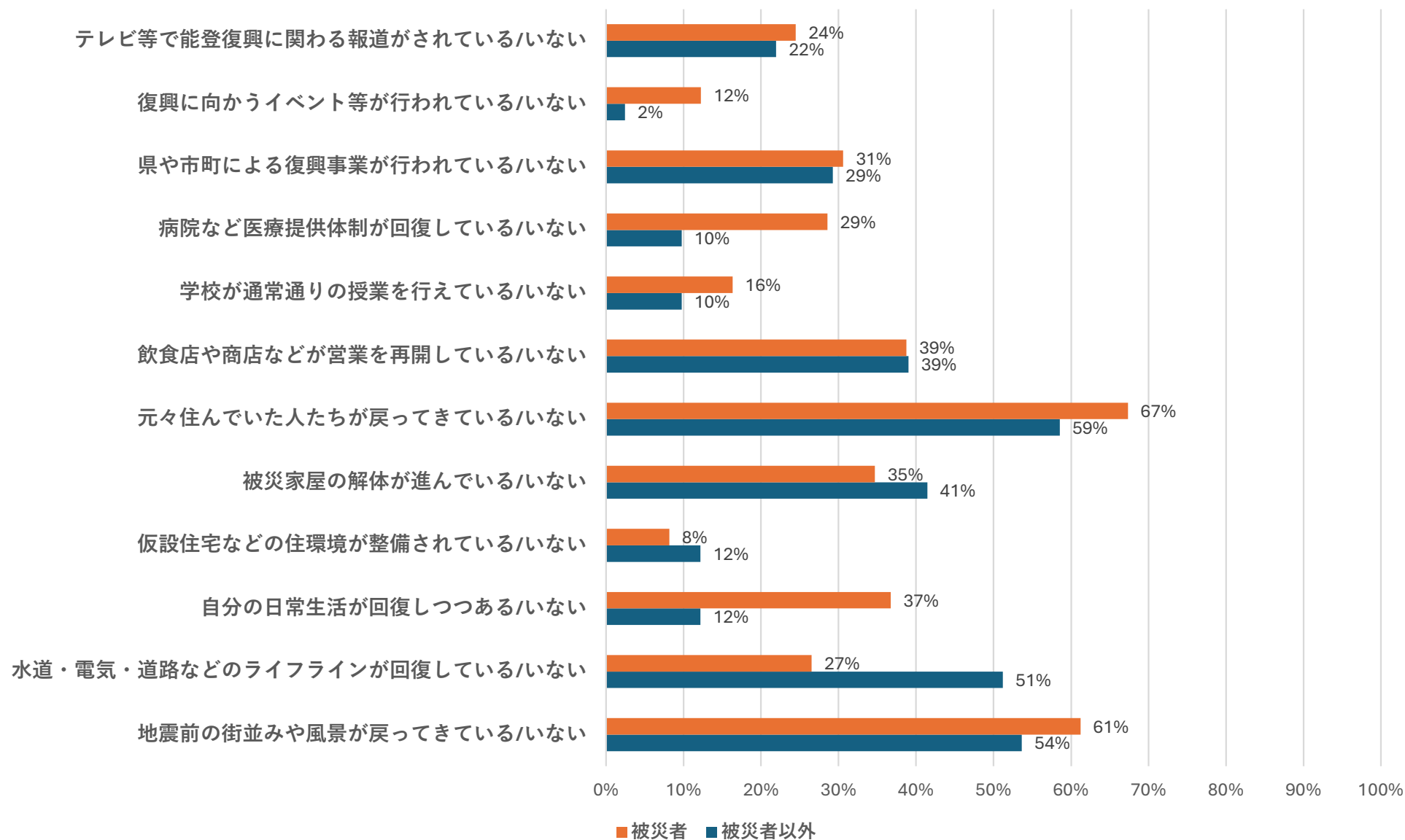


4 - 1. 復興していないと感じる理由 - 折れ線グラフver -

復興していないと感じる理由



4 - 2. 復興していないと感じる理由 - 棒グラフver -

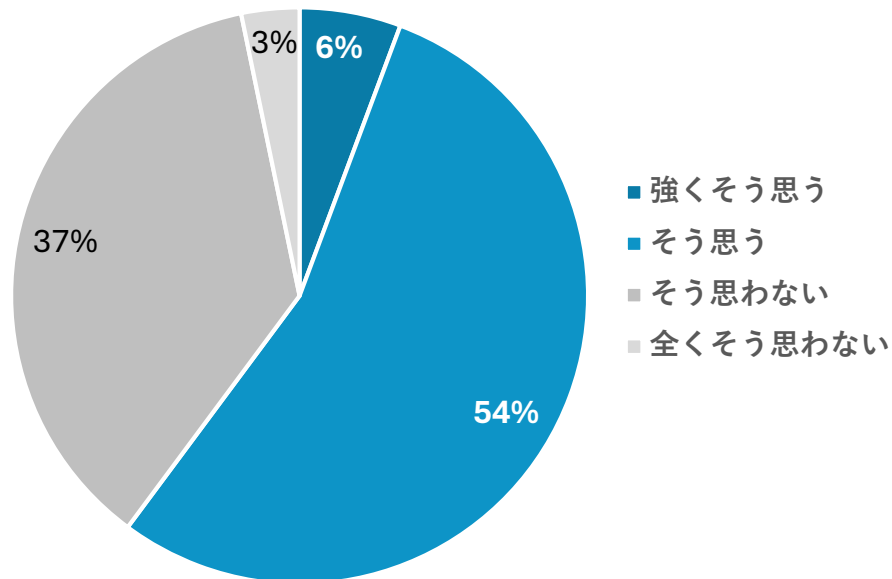


5. 回答詳細

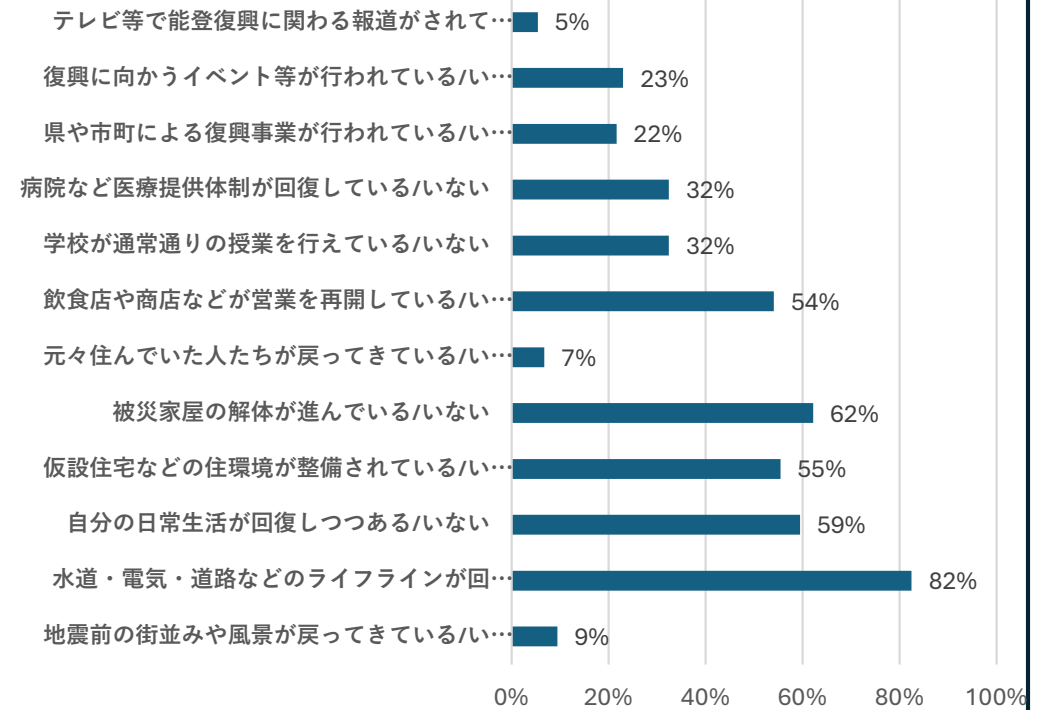
5 - 1. 復興していると感じている被災者

	復興していると感じる	復興していないと感じる
被災者	①	②
被災者以外	③	④

復興していると感じている
被災者の割合



被災者が復興していると感じる理由



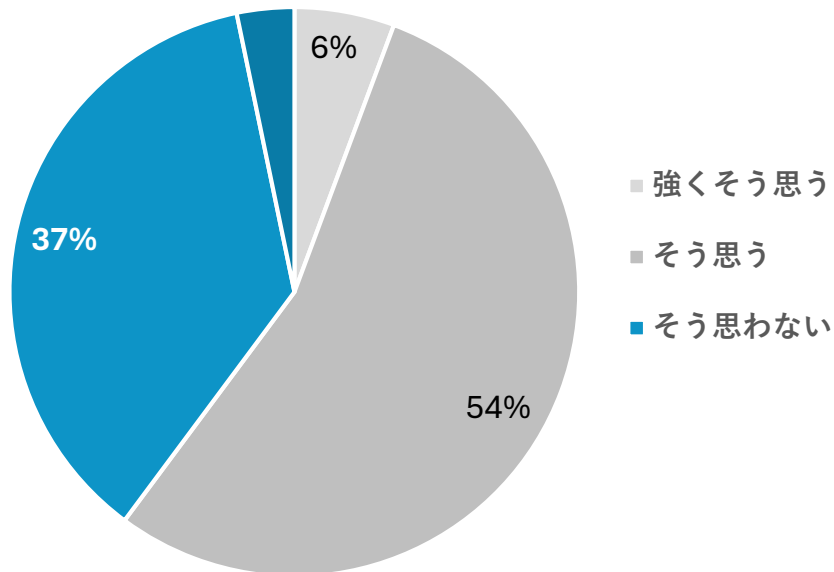
復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
→Appendix_01に記載

5. 回答詳細

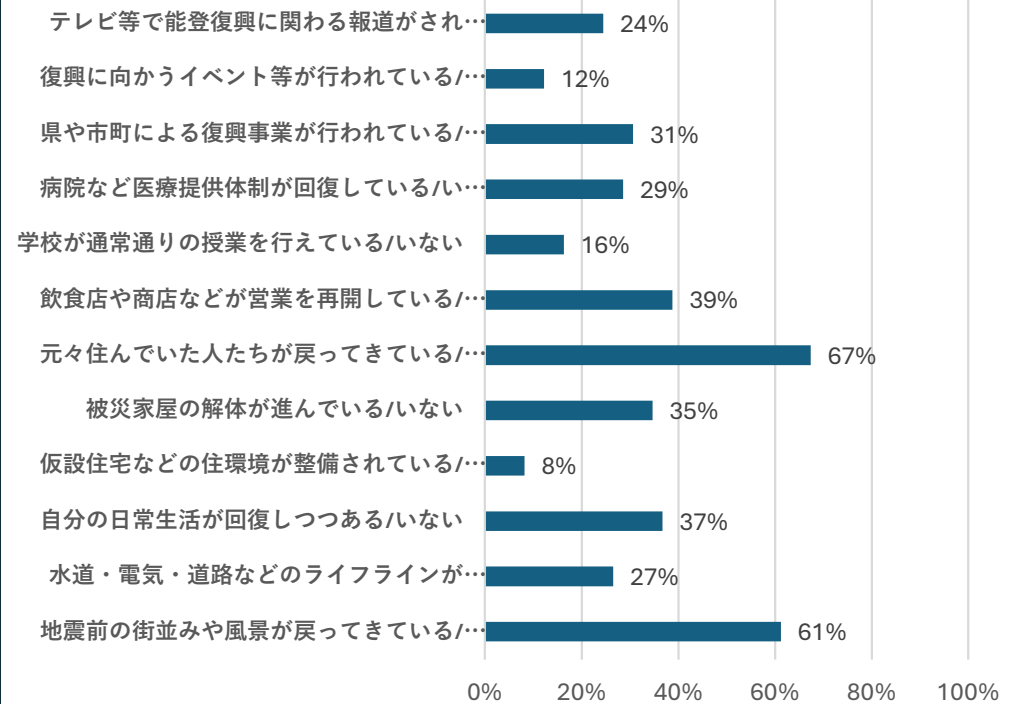
5 - 2. 復興していないと感じている被災者

	復興していると感じる	復興していないと感じる
被災者	①	②
被災者以外	③	④

復興していないと感じている被災者の割合



被災者が復興していないと感じる理由



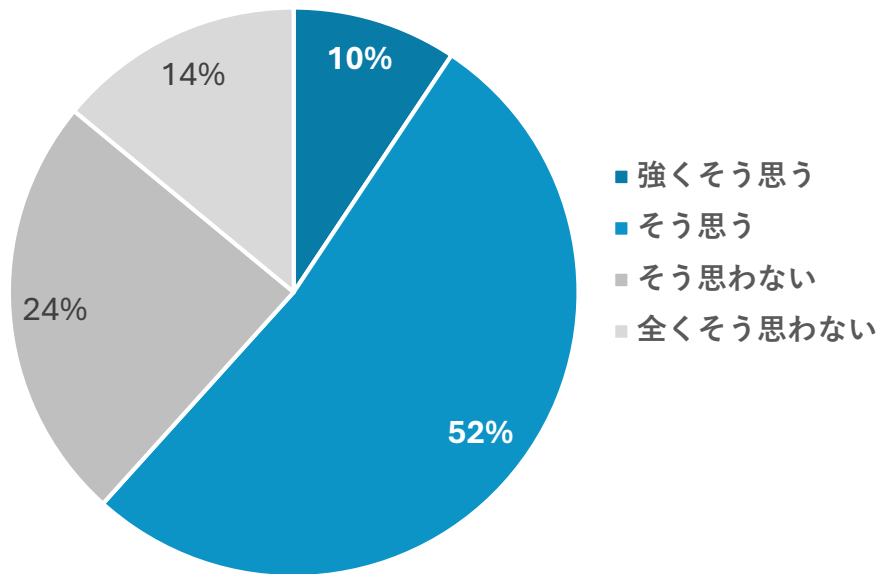
復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
→Appendix_02に記載

5. 回答詳細

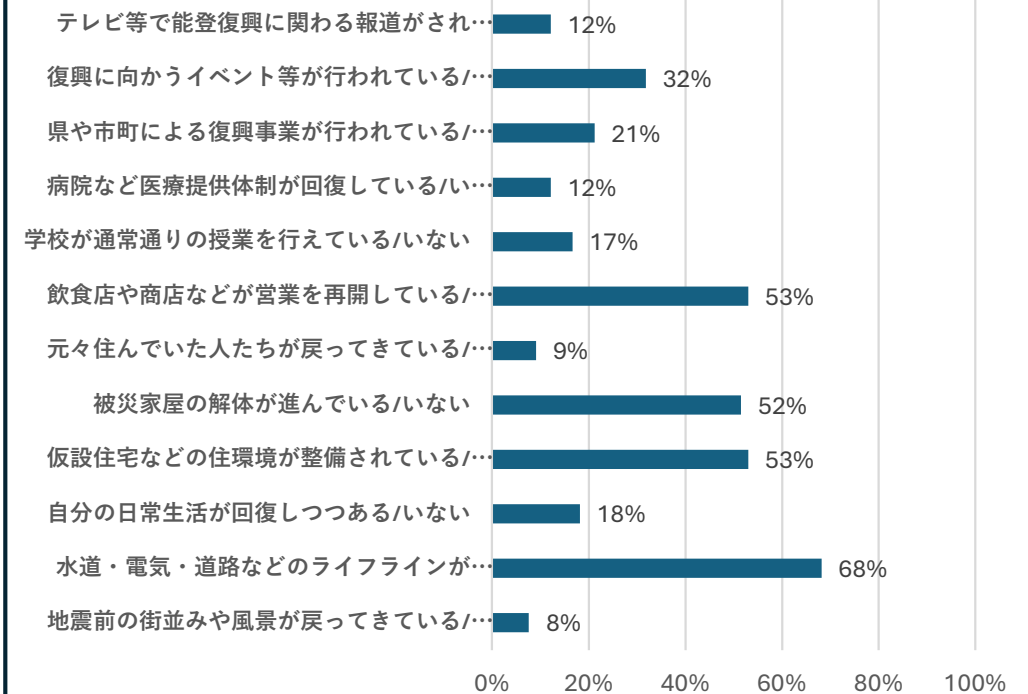
5 - 3. 復興していると感じている被災者以外

	復興していると感じる	復興していないと感じる
被災者	①	②
被災者以外	③	④

復興していると感じている
被災者以外の割合



被災者以外が復興していると感じる理由



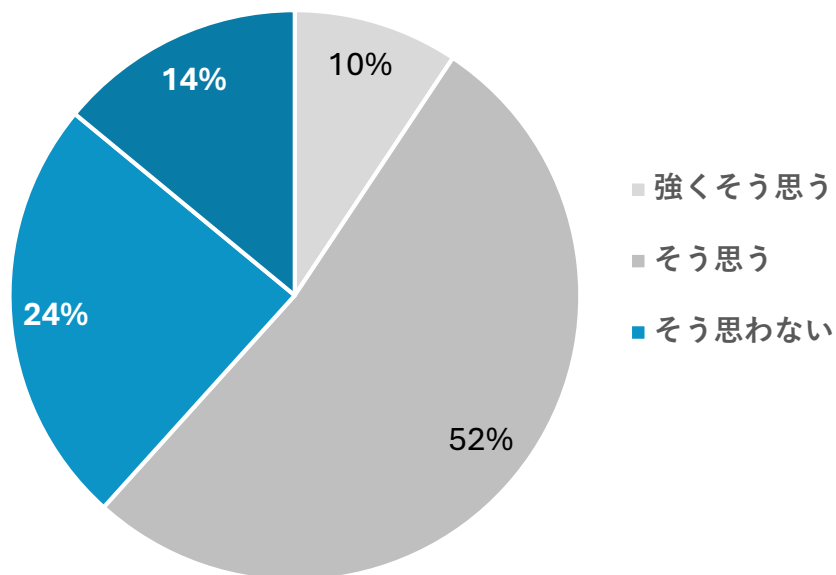
復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
→Appendix_03に記載

5. 回答詳細

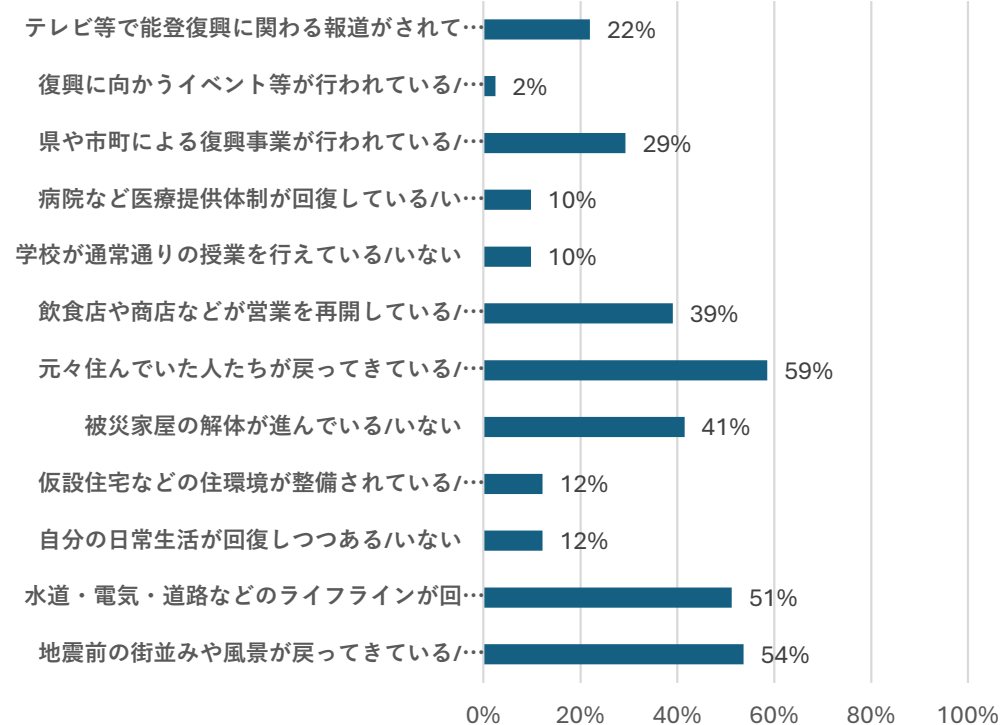
5 - 4. 復興していないと感じている被災者以外

	復興していると感じる	復興していないと感じる
被災者	①	②
被災者以外	③	④

復興していないと感じている被災者以外の割合



被災者以外が復興していないと感じる理由



復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
→Appendix_04に記載

Appendix_01

■復興を感じる被災者の自由記述意見

年代	能登が復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
60代	<p>地場産業の振興、関係人口の増加</p> <p>今の能登は、働き場所が少ないと思います。若い人に残ってもらうには仕事が少ないと思います。</p> <p>難しい事は抜きにして、単純に前に向かって少しずつで良いのかなと思う気持ちかな？</p> <p>人口の増加(関係人口も含む)</p> <p>復興に関わる若い人達が増えないと、復興は難しい。</p> <p>復興住宅の提案低価格帯</p> <p>早期の道路整備、各集落毎の公営住宅の設置、集落内共用畑の設置、漁港の整備、学校内での宿泊場所（空き教室）の整備、ゲートボール場などの整備</p> <p>定期的に自治体の長が力強いメッセージやビジョンを少しオーバーでも住民に発信すること。先が見えないのは不安、あきらめにつながる。</p> <p>地域外に流れた住民を引き寄せる安心や魅力を感じさせる計画の発表。</p> <p>外からの復興業者や観光客などが宿泊できるところを様々な手段を使って本気でいち早く増やすこと。</p> <p>解体により増えている空地のデータを収集（所有者の心づもりなど）管理し、いかに有効活用できるか検討。ただの空き地にならないように。</p> <p>年金生活者には安心安全を。現役世代には仕事を。そして子供には教育を。</p> <p>都市型スタイルではなく、自然共生のくらしの推進。農をまもることでの自給率を高める。多少収入がすくなくとも能登で子を産み育てることの幸せ（これが一番大事）を訴えること。どう知性あふれることを言おうが、未来、というものは産み育てていく（ところ）にあるのだから。</p>
50代	<p>港整備</p> <p>主体性と受援力。</p> <p>子どもが居心地よくいられる場所が増えることと、子育てしていきたいと思える人が増えることが必要です。震災後から幼児教育の勉強を始めて自分なりに実践と言語化をはじめます。</p> <p>人が戻ってくること。</p> <p>広域避難者や高齢者、障害者への支援</p> <p>外部のボランティアや支援団体に頼らず、住民自身で復興を担っていく。</p> <p>市民事態が復興に前向きに動く そのために頼ること</p> <p>既存ではない産業の定着</p> <p>職を失った被災地域への企業の誘致と雇用の再創出。デマによる風評被害を失くすこと</p> <p>被災者のやる気</p> <p>関わりしろを作ること</p> <p>祭などを通じて自分の集落に興味を持ってくれる地域外の人が増えて、継続的に訪れること</p> <p>工事関係者の宿泊所確保、地元業者の仕事を作ること、新規事業の応援、農業継続者への支援(零細規模も)</p> <p>住宅建設と人が戻ってくること</p> <p>各々の地区がどうあるべきかどうしたいのかを話し合い元通りにはならないので</p> <p>まとめる必要があるのでは</p> <p>中々年配が多いのでアナログなやり方しか出来ないのではないかなあ</p> <p>と思ってます</p> <p>でも自分自身がどうしたいのか考えられていないので全体のことは言えないなあと思っています</p> <p>壊れた建物、道路、電柱等がまず全て解体、更地化、元通りになること</p>

	<p>更なる再建費用の増額や補助、キリコ祭りの復活</p> <p>自分や家族や仲間が、地域の復興に関与する機会がある</p> <p>ボランティアが来てくれている</p>
40代	<p>前向きに進んでいきたい</p> <p>多くの方々との関わりと共有を</p> <p>能登で生活しようとしている方々への金銭的支援（起業支援、就職支援、住宅支援など）の条件の緩和</p> <p>交通機関の充実。免許を持たない高齢者が孤立しがちなため。</p> <p>働く場所</p> <p>第一にインフラ、第二に農林水産商業（なりわい）、地震前から続く課題として住む場所の確保、能登で暮らしたいという気持ちを大切にすること</p> <p>復興のビジョンによって変わるとおもいます。現役は10年くらいの成長。その下の世代は以後を。</p> <p>道路、観光地</p> <p>理想と現実の折り合いを見つけなくてはいけない。誰もが元通りに戻りたいけど、この先も持続するためには新しいことを受け入れなければいけないと思う。</p> <p>あと、被害の大小での分裂を少しでも埋めたい。</p> <p>復興を象徴する事業が複数誕生すること。プレイヤーが成功し成り上がる事例が増えれば、次に続くと思います。</p> <p>完全に元に戻すのではなく、向こう30年先の新しいまちを考えて復旧復興する必要があると思う。</p> <p>旅館や民宿など一時的に泊まれる場所を増やす。一部損壊や準半壊に対する復旧補助金を拡充する。飲食チェーン店を呼び込み若者に働く場所を提供する。</p> <p>各自に、復興のことを考えずに生活できる時間が、増えていくこと。</p> <p>まずは倒壊家屋・建物の撤去が終わらんと、町づくりすらできん。道を整備するにも、人を何処かにまとめて住まわすにも、沈下した地盤をどうにかするにも（もう、そのまま自然に還す方法もあり）。</p> <p>併せて、奥能登全体のビジョンが無く、各市町でワチャワチャしてるので、なんか全体協定みたいなのがあると、道路復旧は早い気がする…</p> <p>自治区として4市町の区分はあっても良いけど、ただでさえ人数少ないのだから、4市町バラバラに進めようとしても進まない気がする。</p> <p>住民のマインドセットと地域マネジメント</p> <p>人任せな意見ですが、Iターンの方の力をかりる。</p> <p>はずかしながら、復興に関しては市民よりも熱意があるので、行政とタッグを組んで一緒に考えてもらえたらいいと思う。</p> <p>やはりお金。</p> <p>起業、就職しようとしている方々への（住む所、開業などの）金銭的支援</p> <p>能登を離れた世帯が戻りたくなるような街づくりが行われて欲しい。震災と関係ない他の過疎化地域から憧れを持たれるような「いい感じの田舎」を目指したい</p> <p>子供達の実環境整備</p> <p>アントレプレナーシップを持った人材が、思いっきりチャレンジ出来る様な環境整備。</p> <p>若者を中心とした街づくりに、60歳以上の後押し、行政と一緒に取組む姿勢</p>
30代	<p>住んで働く人が必要</p> <p>積極的な情報発信（復興のアピール）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・圧倒的に人が足りない。 ・少数だが支援格差で文句が出ている。震災当初から輪島、珠洲に比べて能登町被害少なくあまり支援物資がなかった為？クレクレ沢山いて本当に必要な所に物資が届かないので難しい所... ・地元民もボランティアさんばかりに頼っていないで行動してほしい。(自分は地元でボラ活動中)
	仕事
	集合住宅の整備（公営・民営問わず）、外部から人を呼び寄せる施策
	観光の回復 宿泊場所の増加 穴があかない道路の整備
	もっとたくさんの人が必要。業者やボランティア、行政との中間的な役割など、どの分野も人手不足で、受け入れ体制不足。
	雇用が増える(戻る)
20代以下	<p>これがあれば（この人がいれば）大丈夫だ！と思えるような、前向きな期待。みんなが前を向けるような、明るい指針を示してくれるリーダーの存在。</p> <p>活気のある施設を作って大衆の集まる場にする （酒が飲める、ゲームができる、本が読める、大人と子供の交流の場になる など）</p>

Appendix_02

■復興を感じない被災者の自由記述意見

年代	能登が復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
70代以上	能登に帰りたくても家を解体したので済む家が無い、80代なので家を建てる力がない、家を建てれるよう金銭面での支援を今より拡充して欲しい
60代	<p>個々の生業の創生、再構築にあたって、また個人の住まいの建設にあたっては、これからの町づくりの大きな構想を共有することが大切ではないかと考えます。</p> <p>個人の目の前の課題をどうするかで、まだまだ大変な時ではありますが、珠洲市がどのように再生されていくのか？大きな枠が具体化すること（難しいかも知れませんが）少しは具体化するのではないのでしょうか。</p> <p>道路の復旧</p> <p>まずは道路等を含むインフラ整備。</p> <p>家を建てるに当たっても区画がちゃんと安全に整備されない状態では復興はあり得ない。</p> <p>次に人。働く人間がいなければ税収も見込めない。</p> <p>特養の再開。</p> <p>年寄りを抱える世代は施設がなければ介護すらままならない。</p> <p>私自身は自宅を直して住む事ができて、日常生活ができるので復興したと思えるかもしれませんが、珠洲市全体を見るとまだ仮設住宅にすら入れなくて他地区に行かなければならなかった人もいます。これについては復興はまだまだと思います。</p> <p>全く復興していないわけではありませんが、多くの人の家の被害が大きすぎました</p> <p>復旧からの復興</p> <p>作りかえましょう。</p> <p>未来を創造する若者の力が必要です。</p>
50代	<p>以前から有った観光出来る場所はほぼ能登では壊滅状態。一次産業の再編。効率的なスマート農業や水産資源確保の為に養殖の推進。</p> <p>教育現場の集約。</p> <p>後は安定した仕事が今後奥能登に継続出来るのか？</p> <p>インフラ強化の為に、ある程度は、町に集約を促して行くことも必要性を感じます</p> <p>働く場がないと人、特に若者は帰ってこない。働く場の確保と子育て支援の充実。宅地や住宅を安く提供するなど、過疎化や少子化を防ぐ政策が必要</p> <p>働く場所、多種多様の職種</p> <p>行政に頼らないことと、マンパワー。</p> <p>道の整備</p> <p>内外の人の力。これから街を支えていくであろう若い人たちの声をもっと必要と思う。</p> <p>インターネット回線の充実、のと里山海道（徳田大津～穴水）の能越道化（まともな高速道路化）、のと里山空港～関西路線の就航、自動運転技術を活用したバス・タクシーの再構築、ハローワークの解体と新たな職業紹介機関の設立、復興施策を立案し実行する民間行政組織の設立</p> <p>インターネット回線の充実、のと里山海道（徳田大津～穴水）の能越道化（まともな高速道路化）、のと里山空港～関西路線の就航、自動運転技術を活用したバス・タクシーの再構築、ハローワークの解体と新たな職業紹介機関の設立、復興施策を立案し実行する民間行政組織の設立</p> <p>若い方の働き場所、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町の学校、地域に子供達に対しての魅力。</p> <p>住民の話をもっと聞くべき！</p>

	<p>まず人手が足りない。私自身も珠洲の支援に行きたいけれど、実家が解体され拠点が無くなってしまった。珠洲の知り合いもボランティアではなく仕事をしてくれる人が欲しい。と言っている。人が集まるためには、インフラ、住宅となるのだろうか、、、</p>
	<p>仮設店舗するのに土地問題で難しくなってます</p> <p>飯田栄町ですがのと鉄道の線路跡の盛り土が崩れていて危なく困ってます</p> <p>そこを解体して仮設店舗や公園にすれば子供達も喜びます</p> <p>今子供の遊び場がなく休みになれば市外へ行く人が多いですよ</p> <p>子供は地域の宝とよく言いますがもっと子供の支援を分厚くして欲しい、本当に子供のいる世帯がどんどん金沢などに転移しています</p> <p>子供のために来年度に金沢行く家族がたくさん周りにいます</p>
	<p>居住者を増やす。自宅を解体し市外で住む方が珠洲に戻ってきたい、やっぱり珠洲が落ち着く、肌に会おうと思えるような珠洲市再生を市長、市役所職員にもう少し霞ヶ関、石川県にお声がけして欲しい。</p>
40代	<p>子どもやその親世代、20-30代の若者世代が活躍し、生活しやすい環境を構築することが必要だと考えます。産科の確保に加え、スポーツ環境の整備、習い事の復活といった「日常生活のプラスアルファ」がなければ子育て世代は定着しません。</p> <p>いわゆる復興計画案のような行政用の資料だけではなく、「こういうふうになっていくといいね」という具体的なイメージを絵として共有することが重要だと感じています。</p> <p>例えばウィンメルブックのような視覚的な表現で、未来の街や集落の姿、生業のあり方、住民の生活の様子を絵に描き出し、それをもとに地域住民が同じ夢を見ることが必要な気がしています。</p> <p>大人から子どもまで「自分はここでこういう役割を果たしたい」「この部分を支援したい」と具体的な行動がイメージしやすくなりますし、復興は行政による復興事業だけで成しえるものではなく、民間や地域住民が主体となる部分も重要なので、共通の「未来図」を描くことで、それぞれの立場での行動を促し、一体感を生む鍵になるのではと考えています。</p> <p>新しいまちづくり。</p> <p>復興に向けた、イベントやコミュニティへの参加（自分自身が目の前の状況で精一杯で対外的なものへの参加が出来てないのが減員かもしれませんが）</p> <p>住民それぞれの意識改革は必須。お互いの立場を貶さず否定せず、それぞれの凝り固まった正義を振りかざさない。共感できる人たちが集まり、できる場所でできることをやっていけばよく、今はまだ気持ちの追いつかない人を無理強いしてまで統率する必要はない。</p> <p>能登の民宿を含む小規模観光宿は、復興事業者用の価格帯では生業が成り立たない。かつ観光客は激減している。能登の応援割は本格復興してからというが、いま応援して欲しい。北陸応援割については割り当ての関係で能登の小規模宿には苦しいものだった。できれば宝達志水町以北の能登エリアの小規模宿に恩恵がある応援施策を望みます。</p> <p>時間と人が必要</p> <p>災害に強いまちづくり</p> <p>全国に先駆けて行う奥能登全体で協力取り組むことが大事</p> <p>災害の多い日本において、これらの強みがあると人を呼び込むきっかけになると思う</p> <p>早く公営住宅の計画を立てて欲しいし、役場の職員同士も温度差が全く違い</p> <p>いまだ住むところに悩む町民がいるのに</p> <p>町長が、建物の解体後に祭の観覧席を作るとか祭の事ばかり。</p> <p>祭ごとを言う前にまずみんなが安心して住める家を確保できるようにしてほしい</p> <p>能登圏外へ 能登の商品の営業活動</p> <p>仮設ではなくずっと暮らせる住居の確保</p> <p>働ける環境、場所、皆が集える場所が必要だと思います。</p>

	<p>一つ一つを前に進めていく実行力のあるリーダーを各地域で見出すこと。</p> <p>珠洲10地区それぞれの住民による復興計画</p> <p>全国から旅行や滞在先として来てもらえる場所やツアー、体験プランづくり、PR 能登のどこまで行けて、何が出来るのか知らない県外の人が大半の為。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寄付つき体験プラン カニ漁体験、牡蠣から剥き体験、干し柿作り、虫送り、祭り参加、ゆべし作り、わらじ作りなど地域の文化体験が出来る拠点づくり ・ 復興参加型ワークショップ、モニュメント作りなど(解体時に回収されたものから) ・ 全国から生徒が集まる、学校作り (例:徳島の神山まるごと高専) ・ インフラゼロホテル <p>※水や電気、バイオトイレなどを自己循環型、防災の学習も兼ねた場ともなる様な宿泊拠点づくり</p> <p>住民参加型のイベントや事業</p>
30代	<p>上記内容はほぼすべての設問が震災前の状況に回復しているか、していないかを判断理由に問うているが、それは復旧であり、回復ではなく、プラスを生み出す活動が復興には必要と考えているため。まだまだ新たな+を生み出す活動自体が少ないため、復興は進んでいないと感じてしまいます。</p> <p>最小地区単位、職業別単位などどんな単位でも構わないのですが、どの状態になったら復興といえるのか正直、自分自身でも定義できていない、理解できていない。なので、復興に対する共通GOALを設けて共有する。</p> <p>石川県全体(能登だけでなく)でのつながり感を高めること。声に上がらない声に気づき吸い上げること。</p> <p>これからも能登に住み続けていこうと思っている人達の意見</p> <p>能登に住んでる人たちのやる気と、何でも否定せずにやってみようぜ失敗しても別になっとないがいやって感じの雰囲気。</p> <p>珠洲市内10地区の復興計画策定のための、意見集約する組織、人材が必要。</p> <p>再建制度の拡充。</p> <p>住まいの問題解決。</p> <p>まずは復旧をすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 能登でしかできない特例、特区となるような大胆な政策 ⇒ガソリン税の緩和(先端へ行くほど安く)、若年層の優遇(減税、児童手当の増額、能登出身学生の奨学金返済不要など)、風営法の規制緩和(治安が悪化しない範囲で)など ■ 大規模な港湾整備 ⇒陸路が絶たれた場合の物流・医療・人的支援ルートの確保 ⇒クルーズ船が往来できる規模になることで外貨による経済活性化が期待できる <p>復興フェーズが終わっても能登に来る動線を確保すべく能登空港に大阪便飛ばすべきと思っている。2046年まで北陸新幹線延伸しないのならなおチャンスと思っている。</p>
20代以下	<p>遠方からの支援だけではどうしても限界があるので、地元の若者の参加が必要不可欠だと考えます。</p>

Appendix_03

■復興を感じる被災者以外の自由記述意見

年代	能登が復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
60代	<p>能登以外の地域から参加させて頂きましたが、能登の復興（復活）には、引き続きかかわってゆきたいと思います。（能登町から金沢に避難している叔母のためにも）</p> <p>元々住んでいた人たちが戻って来やすいようにする施策すべて</p> <p>東日本大震災同様に他の地域の人が忘れないよう、定期的な意識付け、例えば震災の日に追悼イベントをする等が必要と思います</p> <p>また既に行われていますが、能登の良いところをアピールして、より多くの人を呼び込むことが大切だと思います</p> <p>国からの大規模なソフト面ハード面両方の支援</p> <p>まず資金支援の強化と感じます。</p>
50代	<p>小さなことでもアウトカムを出すこと</p> <p>ずっと変わらずにあった風景が変わることは、言葉で表すことができないほどのことだと思います。私自身も故郷は能登町であり、変わってしまった様々なことにどうしても向き合えない日もあります。明るくふるまっても変わってしまった能登に対して、それぞれの思いを抱えて生きているのだと思っています。この先、長く続くだろう復興の中で大事なことは多くの方が能登に関わってくれることです。ハード面、ソフト面両方からの復興が重要であり、この不便な土地で起きた大災害からどう復興するか？を考える知恵と行動力を持った多様な人材が必要だと感じています。また、失ったものを復興するだけでなく残ったものを大切にしていける活動も必要です。なくなったものは作り直せるかもしれない。しかし震災で残ったものを大切にせず失ってしまったら、それは復興ではないと思っています。これからも天災は日本だけでなく世界でも起こり続けると思います。こんなにひどい目にあった能登から、能登だからこそ未来へつなげる復興ができるはずです。山を切り開くのではなく、変わってしまった地形を生かしたインフラ整備、津波が来たらここへ逃げろ！といえる安全な場所作り、金沢まで行かなくても手術や緊急治療を受けられる医療(遠隔システムや公立病院の集約など)、能登でも学士が取れる大学を、などまずは安全である地域であること、そしてその土地で学び働いていけること、そのような復興を震災が起こってから様々なセミナーに参加して述べてきました。その思いは今も変わりません。私自身は脱炭素や再生エネルギー、電気自動車などに関わる仕事をしていますが、能登はそういったものを取り入れるのに最適の場所だとも思っています。コミュニティの力も強いので、オフグリッドやマイクログリッドも向いています。たくさんの思いはあるのですが、なかなかダイレクトに関われずもやもやしています。どうか来年も能登国政のサポート。足りてません。って思います。</p> <p>集会所やベンチやお店での会話 公園の整備</p> <p>道路の早い復旧</p> <p>物心両面の長期的な支援。</p> <p>根拠のないデマの整理。</p> <p>七尾生まれ、高岡市在住、氷見市仕事場です。富山県の氷見市も被害が出ていて、うちの店もお客さんが来ないと言う現実があります。金銭的な補助金をもっと必要だと感じます。七尾市にある実家は中規模半壊で、地面から8センチ家が土台から離れて浮いています。200万円の補助金ではどうい直せません。実家の弟の仕事場は和倉温泉です。和倉温泉が復興するまでに3年はかかると言われています。七尾市は和倉温泉が機能しない限り観光客が来れないと感じます。問題が山積みで、どこから手をつけていいのかわからず、不安しかありません。奥能登のニュースを見ても、鬱になりそうです。どうしたらいいのかわからないことが不安です。</p> <p>時間軸を長くとった継続的復興計画の策定と実行</p> <p>能登にしか出来ない事を考える</p>

	<p>新しい能登のビジョン。復興とは何か？</p> <p>元に戻しても全国どこにでもある過疎地域が出来上がるだけ。出て行った人は戻らない。</p> <p>限界集落を維持するにしてもあらゆる災害時にも自立できるようにしないと厳しいのではないか？</p>
	<p>市町における長期的なプロジェクトを担える人材の確保</p> <p>復興の担い手となる現役世代が必要な収入を得るための、安定的な雇用環境やビジネスチャンスの創出</p> <p>観光において公共面は案内や電気バス、タクシーなど近代・未来化を行い若者の雇用を作る。震災を記録した施設を作る。今回の震災で明らかになったのは住民が全くIT化についてこれておらず、クラウドファンディングも指向性のある募金という認識で乱立して出資側としても出資しにくかった。少なくとも観光面は意識改革が必要。またそういった背景からPR路線が弱く、現地についてもおすすめの良い場所、美味しい店などが案内されていない。</p> <p>言い方は悪いが壊滅的な状態だからこそ近代化できるチャンスなので逃してほしくない。</p>
	<p>正確な情報発信</p> <p>復興が進んでいないという切り口での報道を控えること。復興への動きに対する報道を増やすこと</p>
	<p>地元の人たちが被災の労苦を語り合い、関わり続けてくれているボランティア団体さんやさまざまな専門家ともオープンに語り合っただけで耳を傾け合い、みずから腹落ちして納得できる未来への希望づくりへの居場所と出番づくりに、ともに行動できるための対話がすすむこと。</p>
	<p>関係者人工を増やすことです。 東京→能登 片道3000円AIRなどを国庫からの補助で実現することです</p> <p>難しいです。</p> <p>各業界で継続的に収入を得られる“場”を創れる人、そして、そのような人たちを応援する社会システム</p> <p>経済的な循環が起こること。</p> <p>能登の経済は農業、漁業など自然資源が基。その担い手は60、70才代が半数という肌感覚です。その世代はテレビや新聞からの情報を得ており、気力が上がらず、活気なく暮らしているように思います。ガマン強く、辛くても弱音を吐かず笑っています。そのエネルギーが経済活動の方へ向かうために、役割が与えられることを願っています。</p>
	<p>行政の本気の後押しがマスト。</p> <p>あと、誰か芸能人に輪島や珠洲の家を買ってもらって能登の今の詳細な様子やインフラの復旧の様子を国内へもっと発信しなければいけません。</p> <p>被災者以外は以前と変わらない生活をしてますが能登の今を知りません。</p> <p>関心を向けさせ続けることが必要です。</p> <p>諦めないこと、続けること、内外と協力すること、助けてほしいことを具体的に発信すること。</p>
	<p>公の土地に拘らずに民有地でも良いので借り上げて宿泊できるようにして解体、土建業者を奥能登で常駐して再建のスピードを上げてほしい。 さまざまな事柄に決断ができるリーダーが必要。多少の強引さがあってもいいと思う。</p>
40代	<p>産業の創出 集落のコンパクト化</p> <p>避難所で生活する人がいなくなること。とりあえず、みなし仮設、仮設住宅への生活が移行すること。</p> <p>目指す復興地点の統一と共有</p> <p>若者や子供の姿が日常的に見られること、活躍がメディアだけではなく高齢者の目で見分けるようになること。（市町の広報など）</p> <p>いつもご支援ありがとうございます。公的や民間でも寄付金が沢山集まったと思いますが、どのように活用されたかほとんど不明です。支援を続けるモチベーションがなくなる気がします。</p> <p>あと能登の道の駅などにある物産品をもっと金沢駅に持って来て欲しいです。</p> <p>それから観光関係以外の住民が使う店舗にも、支援ができればいいと思います。他所から買って支援ができないので。</p>

	<p>国からの支援</p> <p>人が戻ってくるような施策。具体的には居住地の確保やイベントなど。市外に出て行った住民が数日間滞在できる施設があると良い。祭りの時期には皆帰ってきて欲しい。</p> <p>継続的な国家予算の投入。現地での雇用創出。</p> <p>インフラの復旧は最低限、生業の再建、居住の確保、コミュニティの維持や創出</p> <p>働く場所（農地、漁港、工芸など地場産業の復興への注力、能登にある企業への支援など）。</p> <p>人の行き交い</p> <p>経済活動インフラの回復。自動運転バス、空飛ぶ車等交通インフラ系の劇的な規制緩和</p> <p>能登里山海道の更なる整備。外浦の整備。揚げ浜塩田など伝統業の復興による観光振興。</p> <p>元々住んでいた人たちが戻るためのインフラ完全復旧、能登の昔からの暮らしの良さを残しながら作る新しい街づくりプランの策定・県民への提示・浸透、</p> <p>復興したい事業者自身が望む復興。</p> <p>震災前の状態に戻りたいだけが、</p> <p>あれもできます、これもできます、こんなこともできます、は望んでいない。望んでいない復興をゴリ押しするのは一種のハラスメントかと。何回か出くわしました</p>
30代	<p>県外の方が足を運びたくなるような観光地（イカキングや青の洞窟等）や料理がもっと欲しい。</p> <p>まずは道路の整備</p> <p>復旧復興に関する悪質なデマの排除。</p> <p>被災地内外でデマを流す輩をどうにかしないと、今後の能登、またこの先災害によって他地域が被害にあった際に適切な支援がなされなくなる。</p> <p>特に現状おいこら氏を筆頭とした界限を排除しない限り、能登の復興を遅延しかねない（実際建設業者様の撤退や寄付をやめる、などの実害が報告されています）</p> <p>県外の方が移住する際に住める住居の情報が欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少する中で未来の地域像をどうするかについてのコンセンサス ・地震云々と関係無く「若者がなぜ能登を離れるか」に虚心坦懐に向き合うこと <p>人口の流出はもとより懸念されていた事項ではありますが、それについては地震よりも石川県という土地柄も大きいと感じています。</p> <p>復興を糧に、多くの人々が働き住まう場と、よりしっかりとした道路交通の整備がされていくことで、人口増につながっていけばと願っています。</p> <p>ライフラインの安定、復旧。</p> <p>地震、豪雨の教訓から得た災害時の対応を強化し、安心して生活できることを周知する。</p>
20代以下	<p>公費解体された方が安心して能登に帰ってくる、または長く暮らせる住居を確保することなどのお手伝い。</p> <p>外部の者として能登半島に関われるよう事業を進めて参ります。今後ともよろしく願いたします。</p> <p>※生年月日の部分19830612でお願いします。</p> <p>結果を直ぐに求めないこと。被災者自身が活動に参加すること。</p> <p>イベントややりたいことを住民が実現しやすい環境</p>

Appendix_04

■復興を感じない被災者以外の自由記述意見

年代	能登が復興に向かうために、どんなことが必要だと考えていますか？（自由記述）
70代以上	<p>国の予算をもっと使ってほしい。自衛隊をもっと介入させてほしい。</p>
60代	<p>色々な規制緩和が必要です。復興、再建策を進めていくと規制、法律の壁が立ちばかり、行政の規則ですから、前例がありません…</p> <p>その言葉の繰り返しに、心折れました。</p> <p>寄り添う気持ち、伴走して頂けると、後押しになると思います。</p> <p>国、県の今まで以上の支援</p> <p>ボランティアに依存しすぎです。</p> <p>残念です。</p> <p>国による積極的な財政支援</p> <p>政府が一刻も早く、被災した建物を解体し</p> <p>尚且つ幹線道路の復旧を急ぎ、ブルーシートがかかっている家屋の修理を急ぎ</p> <p>仮設住宅を十分に確保して、離れた住民を返してあげる。</p> <p>漁業が中心の狛師町には、一刻も早い</p> <p>湾岸整備。</p> <p>これらを現在の政府主導ではやり遂げることは不可能である。と同時に能登に未来があるんだとの方向性を1日も早く住民にお知らせして未来に希望があるんだと、実感してもらおう。能登はやさしや土までもの精神で</p> <p>世界から観光客の、誘致を行い</p> <p>観光と地場産業の復活を望みます</p> <p>仮設住宅はやめて、マンションを建てる。継続出来る仕事場を作る。</p>
50代	<p>被災地の方が50年先、100年先の未来を考えること。そのための被災地外の方々による支援や伴走。</p> <p>メディアだけではなく、SNSでその場所に住んでる人が発信し続ける。</p> <p>能登だけではなく、石川県全体での協力体制を誰の目からもっとわかるようにしてほしい。</p> <p>交通アクセスの向上</p> <p>教育と医療体制</p> <p>なりわい再建</p> <p>住民の生活の安定が守られること</p> <p>金沢や他県からアクセスしやすい交通網</p> <p>食、自然の魅力発信</p> <p>これまで大切にしてきた特殊な文化の維持</p> <p>インフラの回復</p> <p>公的機関が頼りなさ過ぎるように感じます。</p> <p>地震への備え、安心感。まだこの先も災害が続くという不安の払拭なくして人は戻っていかないと思うし、県外の人も行かない。</p> <p>戻る人のリスト化。</p> <p>スーパーや銭湯などの環境が整ったら戻りたいという人がどれぐらいいるか、など調査して可視化することで不安が解消できれば戻る人が増えるし、1ターンも増える可能性があるのではないかと考えます。</p> <p>また、1ターンで事業計画を支援する補助金など、あるのであれば拡散してほしいです。</p>

	<p>星野リゾートなどが能登半島に目をむけリゾート開発も良いと思う。</p> <p>カジノもありだと思う。</p> <p>リゾート開発は、能登半島の良さ、魚の美味しさ、酒、星空の凄さ、海の綺麗さ！</p> <p>個人的に日本のハワイと勝手に唱ってるほど海の透明度をもっと全面に魅せリゾート開発もできれば雇用拡大、人が集まる環境も整ってくると思う。</p> <p>能登から離れはた被災者を呼び戻すのではなく、離れたからには辛い覚悟と決断をしたから呼び寄せるのではなく、新たに違う土地からも能登に住みたいと言う魅力ある環境をつくるべきだ！</p> <p>金沢、富山から能登への大動脈以外の道路を増やす。海からのアクセスもしやすく。ホバークラフトの運用なども。</p>
	定期的なメンタル支援サポート
	復興事業の加速、仮設退去後の住宅の整備
	能登を起点とした起爆剤
	<p>割と自給自足的な精神の方々も多いのかもしれませんが、食料以外のもの、例えば車やガソリンや衣料品は買ったり、建築資材も必要なので、何らかの形でお金を稼がなくてはならず、継続的に観光客や非居住者から、製品の購買やサービスや研修で対価を得る必要があるので、その手段を考えること。</p> <p>能登だけではないですが、仮に一時的に50代位でも戦力になったとしても次の世代が求められるので、少子化は何とかしなくては実感します。</p>
	仕事
	<p>観光客をたくさん呼んで、能登に興味を持って貰う。単に観光客とせず、ターゲットを絞った観光客を呼ぶ。</p> <p>ターゲットを絞ることで、それ関連のSNSの中で話題になると考えてます。能登にはそれが出来る観光資源があります。</p>
40代	<p>「リーダー」この人が言うからやる。というリーダーが必要だと考えます。</p> <p>震災前と同じような姿に戻して、何年延命するんですかね。もっと未来ある子供たちのために使った方がいいと思います。</p> <p>使える資源などは新しい事業に使って外貨を稼ぐ動きをしたいと思います。</p> <p>この先の人口減少を見据えて、どんなまちとして復興していきたい、いくべきなのか、といった先行きやビジョンが必要</p> <p>復興とはなにかよくわからなくなります。このまで進まないものなのか。このまま人が能登からいなくなってしまうのか。</p> <p>そして、未来へのビジョンがないです。</p> <p>ライフラインの再整備、復興速度を何倍にもあげる、国から見捨てられた感がある。</p> <p>珠洲市出身で、昨年元旦の帰省中に被災しました。今年も珠洲で年越してきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省と自治体の縦と横の連携。 ・国道249号線(真浦 - 仁江間)の整備 <p>外浦の荒波をきちんと把握して、再度崩れないようにする必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田畑の土砂撤去は高齢者だけでは難しいので、ボランティアや公費で業者を入れるなどの措置を真剣に考えてほしい。 <p>地震で能登を離れてしまった人、能登出身の人たちが帰る場所（泊まる場所、滞在できる場所）があるといいなと思います。</p> <p>私は珠洲出身ですが、同級生はみんな帰る場所がなくなってしまったと言っています。</p> <p>勤勉で効率良く迅速に作業する能力は突出しているのに創造したり収益を上げる工夫が苦手でリーダーにはなりたくない人達がとても多いので、ある程度のところまで引っ張る人、俄然やる気を出して動ける仕組み作りが出来る人が恥ずかしながら復興初期から中期の段階までは特に必要なのではないかと思っています。</p> <p>メディアの都合や意図は切り離れた、事実だけをキチンと伝える事をどうにか出来ないだろうか…</p>

	<p>まだ復興できていない町を報道してもらい、全国の皆さんに知ってもらう できているところばかり映すと、安心してしまう</p> <p>政府による復旧・復興活動の実施</p> <p>個人的なことですが、子連れ参加、リモートワークしながら参加できるボランティアがあると参加しやすいと思います。</p> <p>仮設住宅から恒久的な住宅に移り住めるようになること。道路、交通事情が改善され、人衣服店などもあるショッピングモールができ、流通や人々の往来が安定すること。住みやすさが改善され、街並みが集約されながらも耐震化された新しい家と修繕された古くからある建造物が調和し、思い出に残る景色が戻ること。能登の自然を生かした産業、省エネ、より地震に強くなった地域として復興し、南海トラフが起きたときに避難先として被災者を受け入れられるようになること。</p>
30代	<p>地元の人たちが戻ってくるために、元々あった小売店を再開させるべき。そのための復興商店街(仮店舗)が必要だと思います。</p> <p>取り急ぎ</p> <p>個々でやっている情報発信や復興クラウドファンディングの統合</p> <p>一緒にやった方がいいもの 産業をくっつける</p> <p>珠洲直江津間にフェリー航路 (一定の物流海運シフト)</p> <p>上記航路・バス・のと鉄道・脇経由のバス・氷見線・あいの風とやま鉄道・日本海ひすいラインで共通ナンバリングし、徒歩旅客向けの「富山湾環状線」を実現させる</p> <p>ドライブ客向けにも「富山湾環状道路」を実現 (ドライビングシアターや独自ファストフードの実現)</p> <p>物産品をナンバリングに紐付け 能登完結ではなく3県で混ぜるエコシステムをつくる</p> <p>→現在は存在しない通過旅客をつくる 脱石川加賀依存 単独より連合化</p> <p>集落まるごと借りれる屋根のないコンベンションセンター「Convention village」の実現</p> <p>平日も含めた大きくて短いイベント→小さくて長いイベントへのシフト</p> <p>令和版加賀藩みたいな棄民受入政策</p> <p>障害者人材の受入</p> <p>外国人受入の緩和 トー横人材の受入</p> <p>卒業進級が3月ではなく個別</p> <p>留年飛び級有りの特区化</p> <p>宿泊のアップデート</p> <p>冬季夏季の来訪者格差を埋めるため、夏は安く大量に人をさばき、冬は1棟貸し連泊のみの高級宿に変形(宿泊費数十万-3桁万)「不便で缶詰になれるゲストハウス」の実現</p> <p>観光客が宿泊できる施設の復活。祭りを観光資源とした、賑わい。元々住んでいた方が戻れるための住宅整備と仕事の創出。</p> <p>国・政府のより強い支援と後押し</p>